



Worldwide
Independent Network
Of Market Research

(1月22日公表)

WIN 危機インデックス・ 調査レポート(国際比較世論調査)

金融危機についての グローバル・バロメーター

2009年1月

(株)日本リサーチセンター

(ギャラップ・インターナショナル メンバー)

.....

1. 調査目的および調査概要

- WIN (Worldwide Independent Network の略称)は昨年11月から12月にかけて、世界の主要17ヶ国、約14,600人に対して、「第1回・WIN 危機インデックス調査」を実施しました。この調査の目的は、各国における金融危機に対する人々の意見を把握することでした。WIN 危機インデックス調査は今後3ヶ月毎に実施される予定です。調査対象国(17ヶ国)の中には、G8各国(日本、米国、カナダ、フランス、英国、ドイツ、イタリア、ロシア)や、BRICs (ブラジル、ロシア、インド、中国)といった、世界経済において中心的役割を演じている国々が含まれています。
- 国別の調査概要(調査会社、調査方法、サンプル数、調査時期)は下表のとおりです。

Brazil	IBOPE Inteligencia	面接調査	202	12月10日~14日
Canada	Leger Marketing	インターネット調査	1511	11月19日~23日
China	CRC - Cass Research Center	インターネット調査	751	12月8日~12日
France	BVA	インターネット調査	1025	11月18日~20日
Germany	Leyhausen	電話調査	1000	12月1日~9日
Iceland	Capacent	電話調査	617	12月4日~9日
India	MaRS	面接調査	752	12月19日~21日
Italy	Doxa	電話調査	981	11月20日~23日
Japan	NRC - Nippon Research Center	インターネット調査	1040	11月20日~26日
Korea	Gallup Korea	電話調査	509	12月26日
Netherlands	Market Response	電話調査	501	12月1日~8日
Russia	Romir	面接調査	1000	11月18日~21日
Spain	Instituto DYM	電話調査	1012	11月6日~13日
Switzerland	ISOPUBLIC	電話調査	503	12月2日~6日
UK	ICM Research	インターネット調査	1050	11月14日~16日
USA	TRIG	インターネット調査	1601	11月18日~19日

- 調査結果の集計に際しては、各サンプルについて、その国の人口数の要因を反映させたウェイト付け集計を実施している。

2. 経済状況についての見通し

問1. 今後3ヶ月間に、あなたの国の経済は現在よりも良くなると思うか、悪くなると思うか、それとも変わらないと思うか

- 今後3ヶ月間の経済見通しについて、「良くなる」と回答した人は全体の僅か12%に対して、「悪くなる」は半数(49%)を占めている。インド、ブラジル、中国の3ヶ国では、楽観的な見方(「良くなる」の回答)が悲観的な見方(「悪くなる」の回答)を上回っているが、その他の国々ではいずれも悲観的な見方が上回っている。
- BRICsの国々では楽観的な見方(28%)と悲観的な見方(24%)が拮抗しているのに対して、G8の国々では悲観的な見方(60%)が楽観的な見方(8%)を大きく上回っている。
- 日本およびECの主要メンバーであるフランス、ドイツ、英国の3ヶ国はいずれも、悲観的な見方が非常に高率を占めていることは注目に値する。
- ブラジルとインドでは楽観的な見方の人々が高率を占めているが、それとほぼ同じくらい、またはやや多数の人々が「経済状況は変わらない」と回答している点にも注意が必要であろう。

	良くなる (%)	変わらない	悪くなる	わからない / 無回答
India	39	39	14	8
Brazil	34	44	19	3
China	27	31	26	16
Italy	15	29	54	2
USA	14	28	46	12
Iceland	13	17	67	3
Russia	12	29	38	21
Netherlands	10	45	43	2
Korea	9	70	20	1
Switzerland	6	42	51	1
Austria	6	39	52	3
Germany	6	23	68	3
Canada	5	26	61	8
France	5	20	66	9
Spain	4	44	51	1
UK	2	17	78	3
Japan	2	23	70	5
Total	12	33	49	8
*BRICs	28	36	24	12
*G8	8	24	60	8

3. 収入についての見通し

問2. 今後1年間のあなたの世帯収入は、過去1年間に比べて増えると思うか、減ると思うか、それとも変わらないと思うか

- 人々はそれぞれの国の経済見通しについては、悲観的な見方を持っているにもかかわらず、世帯収入についてはかなり楽観的な見通しを持っている。すなわち、「今後1年間に世帯収入が減る」と回答した人は全体の24%に過ぎない（「増える」の回答は26%）。
- 驚いたことには、金融危機の発生源となった米国において、人々は今後1年間の世帯収入については、むしろ楽観的な見方を持っている。すなわち、米国では「今後1年間に世帯収入が減る」と回答した人は5人に1人（18%）に過ぎない（「増える」と回答した人は34%）。
- G8の国々では、約半数の人々（45%）が「収入は変わらない」と回答し、またBRICsの国々では約半数の人々（45%）が「収入が増える」と回答していることは注目に値する。
- 今後1年間の収入見通しについて、悲観的な見方が特に強い国は韓国（53%）、アイスランド（50%）、日本（45%）で、いずれも5割前後の人々が「収入は減る」と回答している。

	増える (%)	変わらない	減る	わからない / 無回答
Brazil	79	16	4	1
India	47	29	12	12
China	38	31	20	11
USA	34	38	18	10
Austria	24	62	11	3
Germany	31	46	18	5
Canada	26	53	16	5
Switzerland	26	53	19	2
Netherlands	20	55	22	3
UK	22	48	25	5
Spain	19	57	23	1
Italy	15	58	22	5
Russia	16	36	28	20
France	19	42	32	7
Japan	11	38	45	6
Iceland	9	34	50	7
Korea	6	38	53	3
Total	26	43	24	7
* BRICs	45	28	16	11
* G8	22	45	25	8

4.不動産市場について

問3.一般的に考えて、現在は住宅を購入するのにふさわしい時期と思うか、思わないか

- 全体では43%の人々が、「住宅を購入するのに、ふさわしくない時期と思う」と回答し、もっとも多い(「ふさわしい時期と思う」と回答した人は25%)。
- 国別に見ると、「ふさわしくない時期と思う」の比率が特に高いのは、アイスランド(66%)、イタリア(65%)、オランダ(63%)、スペイン(61%)、ブラジル(55%)、日本(49%)である。
- 反対に、スイスは「ふさわしい時期と思う」が過半数(57%)を占めており、不動産市場について楽観的な見方が上回る唯一の国である。
- G8 の国々とBRICs の国々は個々の国で比較すると差が見られるが、お互いの合計で比較すると、類似した回答比率を示している。

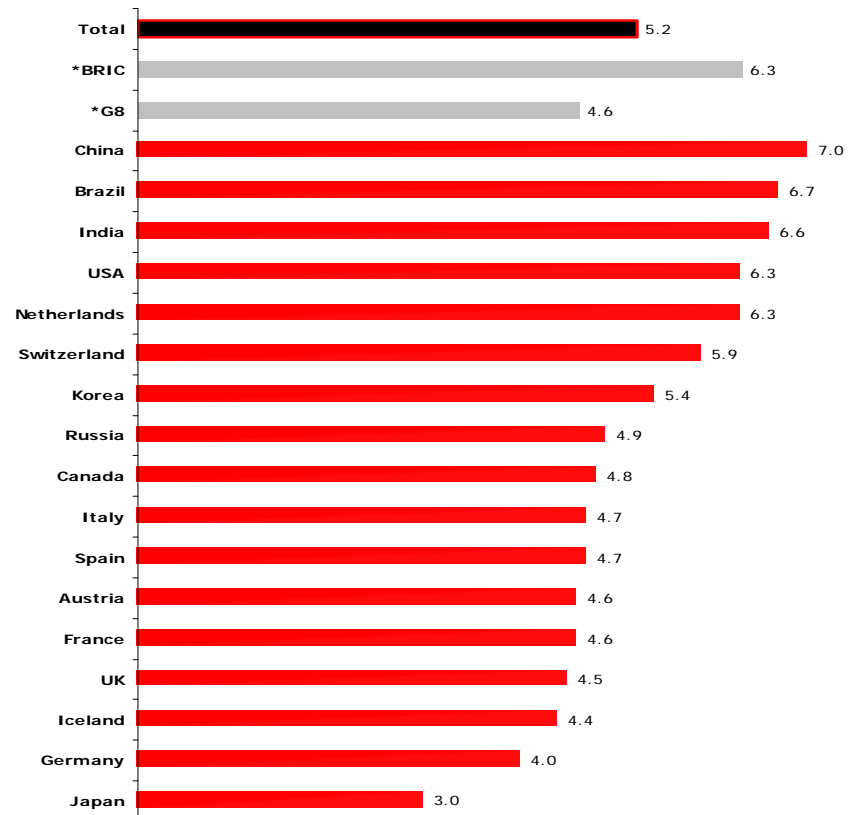
	ふさわしい時期と思う	どちらともいえない(%)	ふさわしくない時期	わからない／無回答
Switzerland	57	11	25	7
USA	38	26	27	9
India	37	29	26	8
Austria	37	14	40	9
Germany	32	26	30	12
Spain	31	6	61	2
UK	28	30	39	3
Brazil	27	13	55	5
Canada	26	37	26	11
Netherlands	22	7	63	8
Korea	21	34	39	6
Italy	18	13	65	4
France	17	36	37	10
Iceland	13	16	66	5
Japan	12	29	49	10
China	11	49	36	4
Russia	7	28	47	18
Total	25	24	43	8
*G8	22	28	40	10
*BRICs	20	30	41	9

5. 金融危機対応についての、政府への信頼度

問4. 現在の世界的な金融危機に対する、あなたの国の政府の対応については、どの程度信頼しているか

- 全体では、金融危機に対する自国政府の対応について 10点満点評価で平均点は5.2であった。
- 自国政府の対応について、評価の高い上位3ヶ国には中国(平均点7.0)、ブラジル(6.7)、インド(6.6)といったBRICs 4ヶ国中の3ヶ国が占めている。
- 反対に、日本(平均点3.0)、およびドイツ(4.0)、英国(4.5)、フランス(4.6)といった欧州の主要国は、自国政府の対応については評価が非常に低い(特に、日本は17ヶ国中で最低の評価となっている)。
- 米国(平均点6.3)はBRICsの3ヶ国に次ぐ高い評価となっているが、これはオバマ政権への期待も部分的には反映されているものと推測される。

「完全に信頼している」を10点、「まったく信頼していない」を1点として評価した場合の、平均点(スコア)を表示した。

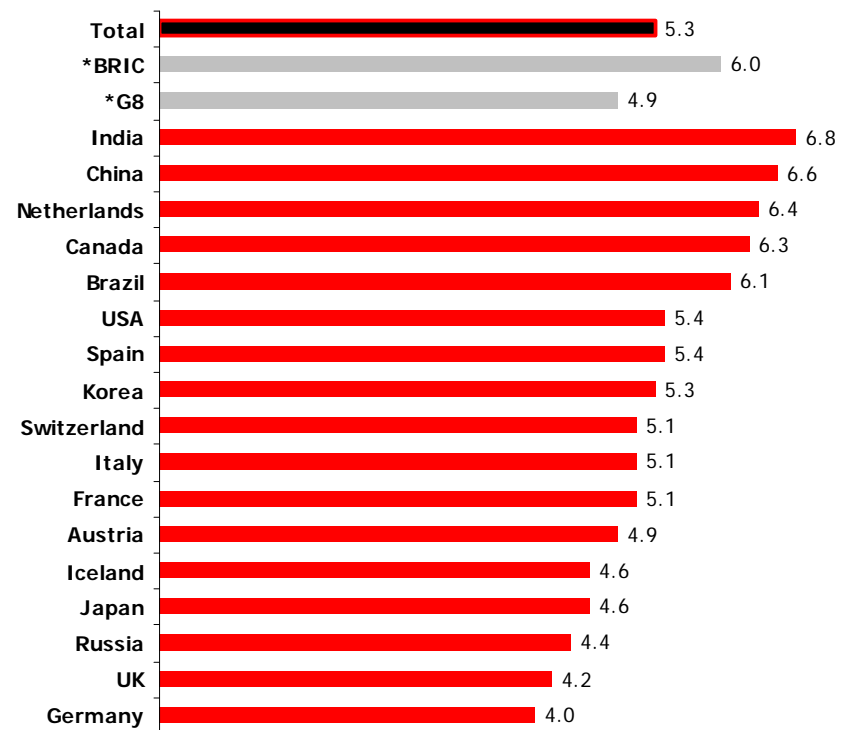


6. 金融危機に対する銀行の安定度

問5. 現在の世界的な金融危機に対する、あなたの国の銀行の安定度はどの程度でしょうか

- 全体では、金融危機に対する自国の銀行の安定度は、10点満点評価で平均点は5.3であった。
- 自国の銀行の安定度について、評価の高い上位3ヶ国はインド(平均点6.8)、中国(6.6)、オランダ(6.4)であり、反対に評価の低い下位3ヶ国はドイツ(4.0)、英国(4.2)、ロシア(4.4)である。日本(4.6)もアイスランド(4.6)と同レベルで、銀行の安定度については、低い評価となっている。
- BRICS の4ヶ国の内、ロシア(平均点4.4)は他の3ヶ国に比べて自国の銀行の安定度についての評価が非常に低い結果となっている(BRICs 4ヶ国の平均点は6.0)。

「完全に信頼している」を10点、「まったく信頼していない」を1点として評価した場合の、平均点(スコア)を表示した。

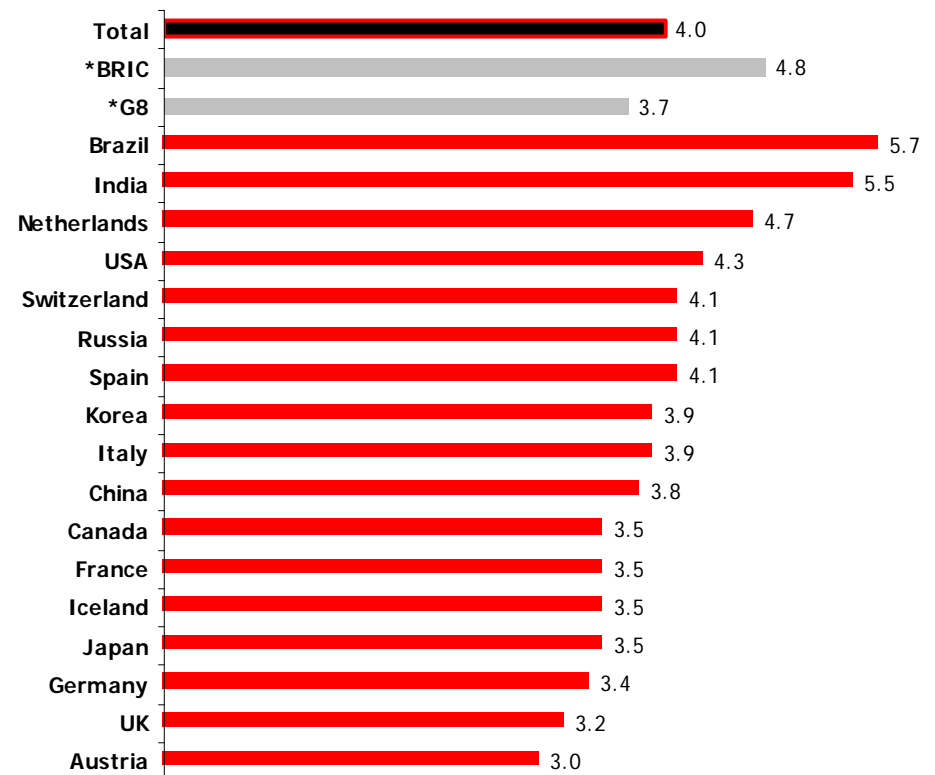


7. 金融危機に対する株式市場の安定度

問6. 現在の世界的な金融危機に対する、あなたの国の株式市場の安定度はどの程度でしょうか

- 全体では、金融危機に対する自国の株式市場の安定度(平均点4.0)は、「政府への信頼度」(5.2)、「銀行の安定度」(5.3)に比べて低い評価となっている。
- 自国の株式市場の安定度について、評価の高い上位3ヶ国はブラジル(平均点5.7)、インド(5.5)、オランダ(4.7)である。反対に、評価の低い国としては英国(3.2)、ドイツ(3.4)、フランス(3.5)といった欧州の主要国や日本(3.5)が挙げられている。
- 国別に見ると、平均点が全体平均(4.0)を下回る国は10ヶ国を数えるが、その中にはG8(8ヶ国)中の6ヶ国が含まれていることは興味深い。

「完全に信頼している」を10点、「まったく信頼していない」を1点として評価した場合の、平均点(スコア)を表示した。



8. 結論

問1～問6の調査結果から、「WIN 危機インデックス」調査の結論として、「楽観的な見方・悲観的な見方のレベル」を基準にして、調査を実施した17ヶ国を次の3つのグループ（「楽観的なグループ」「中立的なグループ」「悲観的なグループ」）に分類した。

楽観的なグループ	中立的なグループ	悲観的なグループ
<p>Brazil China India Netherlands Switzerland USA</p>	<p>Austria Canada Korea Italy Russia Spain</p>	<p>France Germany Iceland Japan United Kingdom</p>

*グループ分類は、各質問に対する回答順位を基準にして決定された。各グループ内での順序は国名のアルファベット順である。



WIN

Worldwide
Independent Network
Of Market Research

「Worldwide Independent Network of Market Research」について

WINは、世界の主要国における独立系調査会社（特定資本系列の世界的な市場調査会社グループに所属していない）のネットワークであり、さまざまなクライアントの国際的な調査ニーズに対して、調査の専門家集団として共同で、高い品質のサービスを提供することを目的として、2007年に結成されました。

WINは、さまざまなクライアントの国際的な調査ニーズや特定地域での調査ニーズに対して、柔軟性と迅速性をもって対応します。WINは、加盟しているすべてのメンバーが、クライアントの調査ニーズに対して最適なサービスを提供できるように、お互いにサポートしています。

WINの日本メンバー紹介

株式会社 日本リサーチセンター（ギャラップ・インターナショナル メンバー）

代表取締役社長 鈴木稲博

東京都中央区日本橋本町 2-7-1

NOF日本橋本町ビル 3F

Tel: 03-6667-3400（代表）